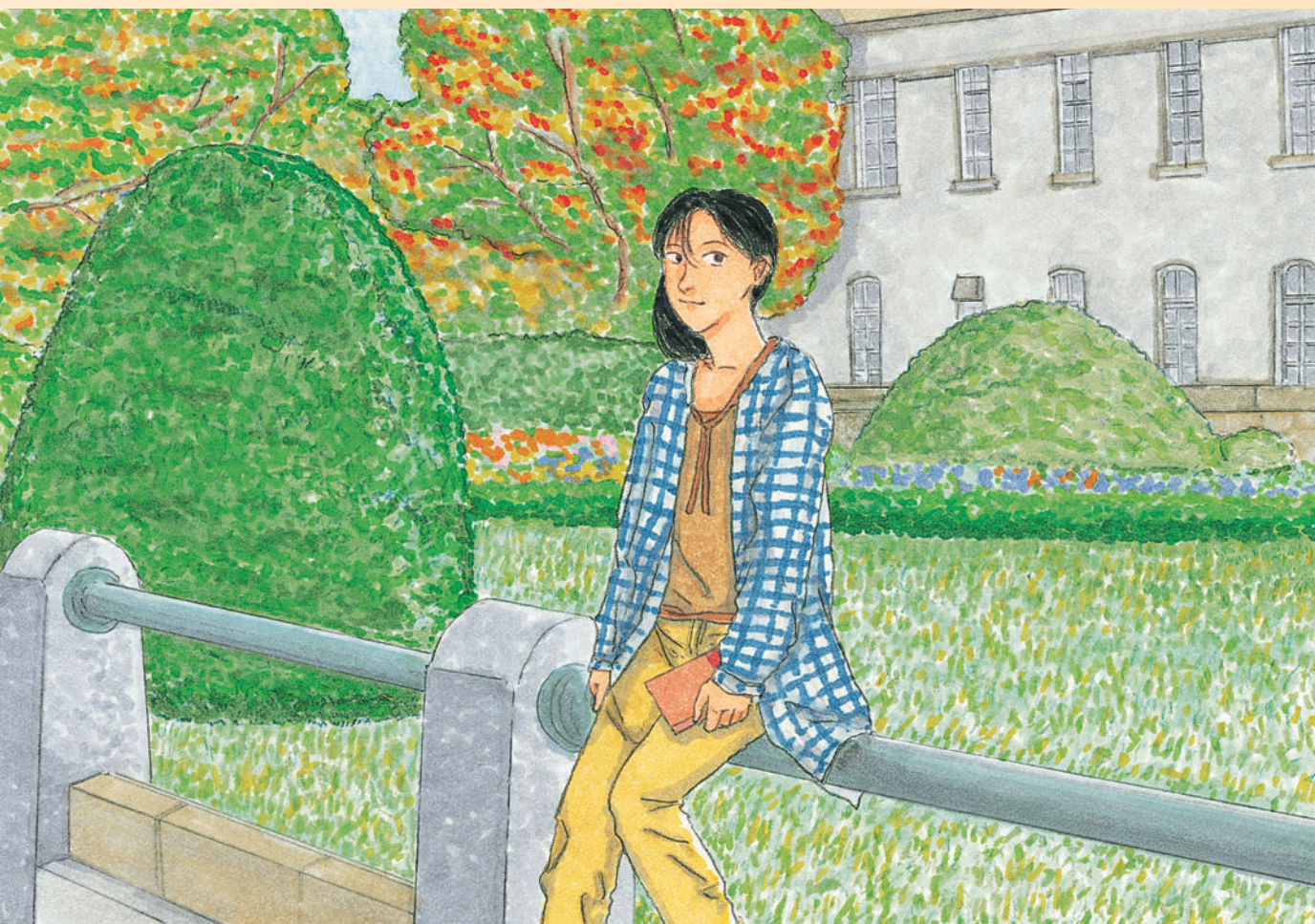


図書館だより

vol.35
No.3

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

北海学園大学附属図書館報 第35巻3号(通巻206号) 2013.10.25



札幌市 大通公園 13 丁目 画：川田裕之

CONTENTS

方位磁石を作りに
図書館へ行ってみよう
草間秀樹 2

柴田 崇 久保勘二
私が薦めるこの 1 冊 3
特別企画：図書館職員による座談会 2 ... 4
アルバイトーク／図書館からのお知らせ／編集後記
..... 8



方位磁石を作り 図書館へ行ってみよう

文＝草間 秀 樹

(くさま ひでき／法学部教授)

毎年、学生諸君が作成した多くのレポートを読ませてもらっているが、このレポートはどこでどうやって書いたのだろうか、ふと気になることがある。自宅で勉強するのが習慣となっている人も、たまには、図書館の広い机に何冊かの本を開き、それらをじっくり読みながらレポートを作成することは良いものだ。私の学生時代と比べて図書館も今ではとても便利になり、検索機にキーワードを入れれば、見たい本やそれに関連する文献をすぐに見つけることができる。これによって私自身の研究効率も上がり、とても助かっている。

その一方で、便利になったものに頼りすぎてはいけない、と自分を戒めることも少なくない。例えば、今乗っている車からナビゲーションを付けたため、特に初めての場所に行くときにはとても便利になったが、知っている所に行くときにもついついナビを設定してしまう。これが習慣となり、自分が今まで培ってきた方向感覚が鈍くなっていくのは好ましくない。そこで、それを防止あるいは修正するために、散歩やサイクリングをするときには、なるべく行ったことがないルートや場所をあえて選び、自分の中の方位磁石を働かせながら進むということをよく行っている。他の人からすれば、まったく無駄で滑稽にみえる行為かもしれないが、私にとっては大事な作業である。

私のゼミの学生には毎年のように言っていることであるが、社会に出るに当たって、学生時代にしっかりとした方位磁石を作ってそれを持って行って欲しい。社会に出て何年か経つと新しい方位磁石を得ることになるであろうが、それまでの間、自分を支えるものとして大事な役割を果たすことになる。そのよう

な方位磁石を作る方法はもちろん一つではないが、サークル活動等を通じて多くの人たちと関わり、議論（意見交換）をすることは、自分を成長させ、自分の指針を作るうえでとても役に立つ。また、読書することは、それと同様にあるいはそれ以上に効果的な方法である。つまり、ある問題についてとても関心を抱いていても、その問題をタイムリーに話し合える人が必ずしもすぐそばにいるとは限らないが、ほとんどの場合、誰かがすでにその問題について考え、その人たちの見解が示されている。そこで、それらを読むことによって疑問が解消されたり、自分の考えの妥当性を確認できたり、問題意識がさらに高められたりする。このような作業も自分の方位磁石作りに寄与するが、そのためには、自分が関心を抱いているテーマにつき、より多くの本を読み、色々な角度からその問題を眺めてみる方が良い。

冒頭で述べたレポートに関していうと、最近、自分で作成したといえるようなレポートが少なくなっているような印象を抱いている。もちろん、他人に依頼して作成してもらっている人が多いという意味ではないが、何か借り物のような文章であるというか、どのような問題意識を持ち、どのようなプロセスを経て当該レポートが作成されたのか文章から感じ取れないものが少なくない。自分で書いた文章をもう一度読んでみよう。そして、そこに書かれている意味を理解しているのか、一つ一つ問いかけてみよう。おそらく、分からないところがたくさんある人は少なくないであろう。そしたら図書館へ行ってみよう。社会に出たらきっと気づくはずだ。身近に図書館が存在しているという環境がいかに恵まれていたかということに。

私が薦める
この1冊

E・W・サイード著（板垣雄三・杉田英明監訳・今沢紀子訳）

『オリエンタリズム』

（平凡社、1991年）

文＝柴田 崇

（しばた たかし／人文学部准教授）

内容を書くのが躊躇われるほどの、言わずと知れた名著である。かつて東洋趣味を意味した「オリエンタリズム」が、本書の登場（1978年）以降、帝国による支配を正当化する表象群を指すようになったことから、その影響力の大きさが推し量ってもらえるだろう。

実を言うと、1993年に文庫化されてからは上下刊の二冊で店頭にならんでいる。それでも「この一冊」として薦めるのは、私自身の読書体験の中で唯一無二の一冊だからに他ならない。

A5判上下二段組でレイアウトされた本書は、索引を含めると400頁を優に超える。難解な内容もあり、当時大学三年生だった私は、丸一日を費やしても読み終えるのに一週間近くかかった。その

後、研究者を志して勉学を続ける中で、本書を読んだことは非常に役立った。その横断的な内容のため、様々な領域の研究者（の卵）に読まれており、本書についての議論を通じて多くの交流が生まれた。また、大著を読み通す経験も、本書が与えてくれたものの一つに違いない。しかし、「この一冊」である理由は別のところにある。私が本書を読み終えたときに感じたのは、言いようのない焦燥感だった。世の中には読むべき本がある。それなのに、自分は有り余る時間を浪費し、大学生生活を終えようとしている。本書は、読むべき本を読まずに済ます損失の大きさを教えてくれた点で、私にとっての最初の一冊であり、それ故、大学生に薦める本を問われて真っ先に思い浮かぶ一冊なのである。

私が薦める
この1冊

齋藤勝裕著

『マンガでわかる元素 118』

（ソフトバンククリエイティブ、2011年）

文＝久保 勘二

（くぼ かんじ／工学部教授）

学生の皆さんに「化学は好きですか」と質問すると、9割以上の学生から「化学は嫌い、化学はわからない」という回答が返ってくる。何故、このような回答が返ってくるのか？ それは、元素記号を覚えていないのである。化学における元素記号は日本語のひらがな、英語のアルファベットである。つまり、元素記号という基本的な表記法を理解せずに、化学を知ることができないのである。文部科学省も科学技術理解増進の取組として元素記号をポスターにまとめた「一家に1枚周期表」をHPで紹介しているが、あまり知られていないのが事実である。

今では沢山の「元素」に関する書籍が販売されているが、専門的で高価なので、わざわざ買ってまで読みたいとは思わない。難しい本を紹介して

も誰も読まないと思うので、マンガと文章を交互に組み合わせられた「マンガでわかる元素 118」を推薦する。本書は元素118のそれぞれの元素の発見の歴史を1頁のマンガで描き、1頁の文章でその元素の特性や最先端の応用テクノロジーをまとめたもので、読みやすくなっている。価格も本体952円（税別）のお手頃である。ちなみに、私はこの本の著者である齋藤勝裕先生と「トロポノイド化学」（アイピーシー）や本年度裳華房から刊行予定の化学の教科書を分担執筆したことがある。私が齋藤勝裕先生と分担執筆したのも何かの縁、皆さんがこの文章「私が薦めるこの1冊」と出会うのも何かの縁。是非、この本を読んで、元素を身近に感じ、化学に興味を持って頂ければ幸いである。

特別企画

図書館職員による座談会2

春号に続き、申・亥・子も加わりパワーアップ！ 図書館職員が心のままに語り尽くす！ 第2弾！ (座・辰・申・戌・亥・子・巳：図書館職員)

座

はい、では、えー、前回春号で非常に好評だったということで、今回も座談会の第2弾で、今度は秋冬に読んでもらいたいお薦めの本を皆さんに紹介させていただきます。
秋の夜長にどんな本を読みたいですか、じゃあまず口火を切って亥さん、何かお薦めの本は？

今、持ってきてるんですけど、『ひたすら面白い小説が読みたいくて』という、とりあえずひたすらにお薦めの小説を児玉清さんの言葉で紹介している本です。途中まで読んでいるんですが、実際に読んだことのある小説も何冊もあります。



ひたすら面白い
小説が読みたいくて
児玉清 著
中央公論新社
2013

座

たとえば何がありました？

『阪急電車』とか、「守り人シリーズ」※1とか。宇江佐真理さんとかも載ってて、読んだことない人にも薦めているので、これからなんかちょっと読みたいなって人には参考になりませ。

座

ほー、書評集。それはおもしろそう。

本を選ぶために何かこう基準になるものとかっていいかもしれないですね。

亥

申

結構知的な本とか多いんじゃないの？

いやー全然、ただ単純に面白い小説で。

亥

座

(パラパラとページをめくりながら) でもあれですね、本読んでるってのと文章書けるってのは、また別なんだけど、すごい読みやすそう。

亥

いろいろ文庫の解説とかも載っけていて、とっかかりにいいんじゃないかなって。

申

本を読むときの道しるべとしても良さそうですね。

座

じゃあ次に巳さんはなにか。

私が興味のある本なんですけど…秋といえは何を思い浮かべますか？

巳

座

スポーツとか食欲とか。あとは…芸術とか。

そうですね。私が紹介するのは、『新体操はスポーツか芸術か』という本です。表現スポーツは技の羅列ばかりでもおもしろくないですよね。自分が今やっている競技も技の難易度だったりシンクロナリティが求められる同じような部類なので興味深かったです。スポーツを通じて芸術の在り方について考えてみるのも良いかと思います。

巳

※1 上橋菜穂子によるファンタジー小説のシリーズ作品



**新体操は
スポーツか芸術か**
渡部愛都子 著
冬幻舎ネッサンス
2009

座 じゃあ戌さんは何かお勧めの本は？

戌 スポーツの秋に焦点を当てて。うちの図書館、バスケットボール関連の本がいくつかあって、その中に皆さんご存じのマイケル・ジョーダンがあらまして、『The man』という本なんですけど…。

座 マイケル・ジョーダンが書いてるの？

戌 いや、マイケル・ジョーダン取材した日本人が書いた本なんです。なんとなくこんな選手だって思い浮かぶと思うんですけど、中には知らない人もいますよね。マイケル・ジョーダンはこんなに素晴らしい成績を残したという具体的な話だったり、それに辿りつくまでの苦悩だったりとか、サクセスストーリーを書いているんです。実は、NBAを3連覇してすぐやめてメジャーリーグに挑戦して、引退と復帰を何回も繰り返しているんですけど、結構波乱万丈でその舞台裏とかもちょこちょこ書いてあって。

座 それ、あれですか、バスケのことを知らなくても面白いですか。

戌 面白いと思います、はい。



The man
宮地陽子 著
日本文化出版
2003

座 では次に子さん。

子 夏に選挙があったじゃないですか。それで、やっぱり若い人は選挙に行かないってのが顕著に出た選挙だったんですよね。それはなぜかいろいろ考えたんですけど、政治とかって身近なものじゃないんじゃないかって。何かしら学生に少しでも政治とか選挙とか、自分自身が関係してるんだよっていうのを感じてもらいたいなと思って。

座 子さんからそんな話が出るとは思わなかったよ。

申 身の毛もよだつ話ですね！

子 まあ学生の購入希望だったんですけど、『政治と経済のしくみがわかるおとな事典』という図書があって、ぱらっと読んでたんですよ。僕、本読まないんですけど、本読まない人って活字が苦手な人も多くて。その本はいろんなことが書いてあるんですけど、税金がどれだけ使われてるとか、選挙権を持つて人間がこういう風にしないとこういう損がありますよとか、絵も入ってるし活字も大きいんです。本って全部読まないで完結しないものもありますけど、中にはこれだけ調べたいとか、これだけ読みたいって人もいるので、自分の知識がない本をちょっと読んでみようかなって人にはすごい読みやすいんじゃないかなと思います。



**政治と経済の
しくみがわかる
おとな事典**
池上彰 監修
講談社
2012

辰 では座長の番です。

座 まあ寒いときに寒い話を読むかっていうところで、『雪男は向こうからやって来た』という本です。

座

もともと朝日新聞にいた角幡さんという人が、学生時代探検部にいて、ヒマラヤのあたりをずっと探検してたの。で、どうしてもそのことが忘れられなく、もう一度行きたくて朝日新聞を辞めるんだけど、そのときに先輩からちょっと雪男の捜索隊がヒマラヤに行くんだけど一緒に行ってくれないかっていう話があつて…。

申

普通一般に考えるとまあいいですよな。

座

最初は雪男なんているわけじゃないじゃん！のスタンスで書かれているんだけど、これはね、日本の名立たる、まあ申さんあたりなら知ってると思うけどクライマー…。

申

植村直己ですね！

座

いや、あの人…世界で女性初のエベレストに登った田部井淳子さんなんですけど、他にも三大北壁の登攀に日本人で成功した芳野満彦さんとか、実は割と見てるんだよねって人が多いんですよ。見てるってのも遠くで確認したとかではなくて、もう、すぐそばにいましたよくらい。

ええ～！

戌

座

私もね、そんないれば面白いよなーくらいなんだけども、読んでくうちにもしかしたらいるんじゃないかなって。筆者も、まあ新聞記者ですから珍獣がいればおもしろいな、とその程度で。ただ常識的にね。一般の人に川口浩探検隊じゃあるまいし、雪男を探しに行くんです、と言いにいくくらいの否定派ではあるんですよ。それと、新聞記者だけあつて確認取材はちゃんとするんですよ、おもしろおかしくではなくて。



雪男は向こうから
やって来た

角幡唯介 著
集英社
2011

申

雪男は熊じゃないかとかよく言われてますよね。

座

熊の足跡が重なるとそれっぽく見えるとか、いろいろ検証はするんだけど、どう考えても他の動物ではないみたいなのもある、と。で、それが名だたるクライマーや冒険家の人たちの証言によって、ガセではなく信用に値するような感じでどんどん本が進んでいくんですよ。雪男にのめりこむほかの人たちも、大体クライマーが多いんだけど、取り憑かれると雪崩にあつて死んだり、魔物のごとく災厄が降ってきたりとか。

ふいふい。

巳

座

今の、馬鹿にしてるでしょ。

申

鼻から空気が抜けるような感じでしたね。

座

いや、大体ね、著者の角幡さんも小馬鹿にされるし、本人もしてたと。で最後本人も探検隊に加わって、…まあネタばれになるからあんまり詳しくは話さないんだけど。結局本人ものめりこんでしまつて、と、まあその先は本を読んでからの楽しみということで…。

すごいいいところで寸止めですね。
ちょっと気になりましたね！

子

座

今度はあれですかね、映画とか。

そうですね、映画まだ出てきてないですもんね。

巳

申

雪男の後なので、冬のアメリカの片田舎が舞台の、『ファーゴ』を思い出してみただけだけど、これがなかなかおもしろくて。
とある、ちんけな男がお金に困って狂言誘拐で身代金を要求しようとしたと。食っていけるくらい。ところがその時に協力を求めた連中がドジで余計なことをしてしまって、バタバタしてるうちに人を殺してしまうんです。

それあれですか、これから見る人…。

辰

申

ネタばれじゃないです、大丈夫です。それで、もともと少しでもよかった身代金の額が跳ね上がっちゃって、話もどんどん大きくなっていくというストーリーで、まあ最終的にどうなるかは映画を見てほしいんですけど。僕がこの映画を推すのは好きな俳優さんがいて、スティーブ・ブシェミっていう。ブシェミってのはすごくかわいいような男で、たくさんの映画の中で殺されたり喧嘩に巻き込まれたり、この話の中でもちょっといい感じになる女の人から変な顔呼ばわりされるチンピラ役で。



ファーゴ

イーサン・コーエン
製作・脚本；
ジョエル・コーエン
監督・脚本
アスミック
1996

申

あ、辰さんも喋りたそうですね。

喋りたそうとか言うなあ男。超腹立つ。

辰

座

じゃあトリです。

『8人の女たち』というフランス映画なんですけど、雪に閉ざされた大邸宅で起きる密室殺人の話で、浮気やお金絡んだ話なんですけど…。

辰

座

すごい魅力的じゃないね。

…じゃないんですけど、映画自体がクリスマスの日を舞台にしているカトリーヌ・ドヌーヴとかフランスの名だたる女優さんが出ているんです。中にはまだ無名の人もいて、すごいのが8人いる女優がベルリン国際映画祭でみんな女優賞を受賞しているっていう。普通の映画なんですけどちょっとすごいのが、歌でなんかこう感情表現しているんですよ。

辰

ミュージカル仕立てで。舞台が家の中で、ほとんど家の中の風景から変わらないというか、切り替えもあんまりなくて、尚且つ、こう女性同士のどろどろした部分が出てきていて…。

辰

密室なんですか？

亥

そうですね。そこの主人が殺されるんですよ、家の中で。

辰

座

ミステリー？

というか、まあそう、結局誰が殺したのかを女同士が探り合いながら、そんな感じの話なんですけど。映画なんだけど場面展開が少ないので舞台を見ているような気がしてならないのと、時々入る音楽がフランスっぽくていいかなって。

辰

座

よくフランス映画ってオチがないとか。

そうですね。ただこの作品に限っては大丈夫です。人間が相手に対して持っている猜疑心とかそういうものを爆発させながら話が進んでいって結論というか、物語が進んでいっておもしろいかなと思います。

辰



8人の女たち

フランソワ・オゾン
監督・脚本；
マリナ・ド・ヴァン
共同脚本
東芝デジタル
フロンティア
2001

座

今回もたくさんの作品を紹介してきましたが、ぜひ、いろいろな作品に触れて欲しいと思います。ではこの辺で。

灯火親しむべし…

文＝金 ナレ

(キム ナレ)

大学院 経済学研究科経済政策専攻 修士課程 2年

皆さん、今年は充実した夏休みを過ごすことができましたか。私は名前から分かるように韓国人で、今年10月で日本での生活がちょうど5年目になります。相当長い時間が経ったように思いますが、私は夏休みをまだまだ不足している日本語力と修士論文という関門、そしてこれからのことなどについて悩みながら過ごしました。日本でも「灯火親しむべし」という言葉があると思いますが、韓国では秋の美しさを表現する言葉として「天高馬肥の季節」というものがあります。これは天は高く馬は肥える意で、こうした良い季節を迎えて本を読もう！というのは韓国人であれば子どもの頃からよく耳にする話です。

『図書館だより』なので私の経験に照らしての読書の大切さについて少し述べたいと思います。私は韓国で大学を卒業して、数年間の社会人生活を経てから日本へ留学したケースです。よく人から何で日本に留学したのと聞かれることがあります。が、「本能のままに行動した」ぐらいしか言えるのがなかったのが事実です。ところが最近考えてみると、もともと本を読んだり、想像したりするのが大好きな女の子だった私が90年代後半の韓国の経済危機の中で、理性的に導か

れた安全な選択をするという人生の過ごし方に物足りなさを感じたのは、ごく自然なことだったかもしれません。もっと充実感に満ちた人生を過ごしたいから…ということですね。

大学院生として学校に戻ってきて、日本での不慣れた生活や経済的な問題を抱きながらも、好きなことが自由にできる学生生活っていいなあ～といつも感じています。生活に追われて忘れていた自分自身を再び見つけたような感じで、人生に対する情熱、苦痛を愛に変える想像力の大切さ、自由意志を持って生きていくことの重要さなどは、これからの私の学問の根底をなしていくものだと言っても過言ではないでしょう。そして私はそれらを例えば昔読んだシャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』のような本の中で最初に教えてもらったように思います。大学生のうちに色々な経験をしておくといいと思いますが、その中で読書特に古典を読むのが私のオススメです。それは孟子が『万章』で言っているように読書することによって、昔の賢人を友とすることができるだろうし（読書尚友）そして将来の自分にとって誰も盗むことのできない宝物になると確信するからです。

図書館からの
お知らせ

図書館では第59回図書展示を開催しています。今回の展示内容は、今年2013年に世界遺産に認定された『富士山』です。皆さんも展示を通じてその魅力を是非ご覧ください。

展示期間：2013年10月1日～2014年3月31日

展示場所：本館1階自由閲覧室前

編集後記

今から数か月前に「はだしのゲン」（中沢 啓治著）の閲覧制限問題がありました。松江市の議会、教育委員会、小中学校が舞台となった問題です。図書館人として動向が大変気になりました。

一般市民（当然子どもも含まれます）に対して上から目線で指示を出し、「教育的配慮」から見せたり読ませたりしてはいけない、とフタをする考えがまだあるみたいです。

図書館は「知る権利」を応援するところです。原則として

情報は開示しなければなりません。その情報が良いか悪いかの判断は扱う人に委ねます。努々思い上がってはいけません。

極めて難しい問題ですが、意識を研ぎ澄ませて生きていく時代となりました。何処に居てもこのことを考えながら生きていこうと思います。

チョット固い話となりました。真理探究の場である大学に関係する人たちが少しでも考えて頂ければと思います。